令和２年度小学校動物飼育推進校 実践事例

ー　生命の尊さを実感させる継続的な動物飼育　ー

令和２・３年度　小学校動物飼育推進校

- 新宿区立東戸山小学校
- 世田谷区立太子堂小学校
- 中野区立白桜小学校
- 青梅市立第七小学校
- 青梅市立新町小学校

○令和２年度の実践事例

・衛生管理に係る実践事例
・体験活動に係る実践事例
・研修会に係る実践事例
・埋葬に係る実践事例

各実践事例等については、東京都教育委員会ホームページに掲載しています。
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/animal.html

令和３年４月

東京都教育委員会

衛生管理に係る実践事例

推進校では、飼育動物の衛生管理を適正に行っていくに当たって、学校担当獣医師から飼育動物の健康診断や飼育環境についての指導・助言等の支援を受けています。

新宿区立東戸山小学校

飼育のポイントについての指導

【実践の概要】

○　本校では、飼育環境委員会を中心にヤギの飼育を行い、生活科の中で第１、２学年の児童がヤギと継続的に触れ合う活動を行っています。これまでに助言していただいたことに加え、新たに気付いたことについても、学校担当獣医師に確認をしながら、飼育動物の環境をより良くするために改善に取り組んでいます。

　特に、ヤギの様子に不安があったときには、獣医師に健康診断をしていただいたり、餌の量や観察のポイントを指導していただいたりすることができました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

○　本校では、各学期１回程度実施しました。ヤギの適切な餌の量や体調を観察する際のポイントについて助言いただきました。ヤギは体調を崩すことがありましたが、その際は、飼育小屋の改善や治療方法について指導を受けました。

　また、感染症対策により、ヤギの飼育活動に協力いただいているヤギボランティアの方々と、日頃の飼育活動について意見交換する場を設けることが難しかったので、学校を通じてボランティアの方からの質問を学校担当獣医師に伝えるなどして連携をとりました。

【児童の反応】

○　適切な餌や水の量、糞（ふん）や尿の処理の仕方、ヤギの健康状態の観察の仕方など、衛生管理について指導・助言をいただくことで、児童がより良い飼育活動を心掛けるようになり、詳しく観察して、ヤギの様子や変化に気付くようになりました。

○　ヤギの様子や飼育について児童自ら、気付きや疑問をもつことができ、学校担当獣医師に質問することができました。より良い飼育について詳しく知ることで、児童が自信をもって、主体的に飼育活動に取り組むことができました。

★★★

★★★

★★★

★★★

体験活動に係る実践事例

推進校は、生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法を開発する等、生命の尊さを理解させ、動物愛護の心を培う体験活動に取り組んでいます。体験活動の実施に当たっては、学校担当獣医師から支援を受けています。

新宿区立東戸山小学校

【実践の概要】

○　ヤギとの関わりをもつ中で児童が感じた疑問や思ったことを学校担当獣医師に尋ねたり、伝えたりする活動に取り組みました。

　また、教員と児童が共に世話や触れ合い活動をする中で、ヤギも児童も安心して触れ合える方法について教えていただいたり、獣医師の仕事、ヤギ以外の動物についての話もしていただいたりすることで、生命の尊さや動物愛護についての理解が深まりました。

低学年の飼育動物との触れ合い

ヤギの飼育について委員会での話し合い

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

○　事前に担当教員と学校担当獣医師とで打ち合わせを行いました。その際に、児童の疑問や飼育活動を行う中で不安なことを事前に伝えておくことで、児童に適切な言葉掛けをすることができました。

【児童の反応】

○　第１、２学年とも動物が苦手な児童がいますが、学校担当獣医師を通じた触れ合い体験を行うことで怖がらずに接することができるようになってきました。

○　学校担当獣医師との触れ合い体験の学習を通し、動物をよく観察することで気持ちが分かるようになることを学びました。また、動物と仲良くなるには、動物の気持ちを考えてお世話することが大切であることを学び、生命を大切にすることの重要性に気付くことができました。

○　学校担当獣医師から「お別れが近いかもしれない」と専門的な見地からヤギの体調について診断していただき、ヤギの最期に当たっては、寝床や給餌、給水、体温の保持について助言をいただきました。専門家である獣医師に来校してもらい、ヤギの様子を確認していただいたことも心強かったです。

★★★

★★★

★★★

★★★

研修会に係る実践事例

推進校は、動物の適正な飼育や動物愛護の心を培う体験活動の実施に向け、研修会を行っています。その際、学校担当獣医師から、動物飼育に関わる専門的な内容について指導を受けています。

新宿区立東戸山小学校

【実践の概要】

○　本校では、低学年の教員を中心に日頃の飼育活動から気付いたことや疑問に思ったことを、学校担当獣医師が授業の打ち合わせや授業などで来校した際に意見交換を行い、飼育する上での留意点や飼育環境等について助言していただきました。また、獣医師の立場から児童に留意してほしいことやヤギの特徴から飼育の仕方についての指導を受けました。

教職員に向けた研修

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

○　事前に担当教員と学校担当獣医師との間で打ち合わせを行い、飼育をする上での留意点や飼育環境等について、より良い飼育が行えるように指導を受けました。

また、例年は飼育に携わる教職員や地域・保護者・ボランティアを中心に獣医師との研修を行っていましたが、今年度は、加えて全教職員を対象に学校担当獣医師との研修会を行い、学校での飼育活動が、持続可能でより良いものになるよう意見交換し、助言を受けました。

【教員の反応】

○　動物飼育活動の経験がある教職員でも、ヤギの飼育については不安を感じることがありましたが、学校担当獣医師に確認することで安心して飼育活動に臨むことや児童への指導をすることができました。

○　担当の教職員だけでなく他の教職員にとっても、動物飼育の留意点等について知る機会を設けることができて良かったです。

○　飼育に携わる教職員や地域・保護者・ボランティアを対象に学校担当獣医師との研修会を行ったことで、飼育方法に関して不安なことについて助言を受けられ、また今後のより良い飼育活動のあり方についても意見を交換することができました。

★★★

★★★

★★★

埋 葬 に 係 る 実 践 事 例

推進校は、飼育動物が死亡した際、児童に生命の尊さを伝える取組を実施しています。また、学校担当獣医師から、遺体の検案、埋葬場所の準備、埋葬の処理などについて支援を受けています。

新宿区立東戸山小学校

【実践の概要】

○　飼育する２頭のヤギのうち、９歳を迎えた親ヤギが 10 月に寿命を迎えました。死が近付くにつれて、餌の量が減ったり、倒れたりすることが増え、その様子に気付き、心配する児童も多くいました。飼育小屋を二つに仕切り、体を休めたり、自分のペースで餌を食べたりできるようにしました。ヤギの最期に当たっては、学校担当獣医師に確認をとりながら、児童にとっても、ヤギにとっても安心して安全な関わりがもてるように心掛けました。

立てなくなったヤギの世話

○　新型コロナウイルス感染症対策下であることを踏まえ、お別れの集会などは行うことができませんでしたが、児童がメッセージを書いたり、代表児童が放送でお別れの言葉を読んだりしました。埋葬にむかうヤギに１年生が「ありがとう」「またあおうね」と声を掛けて見送りました。いつも当たり前のようにいたヤギの死に直面し、生命の大切さを感じていました。

お別れの言葉を述べる代表児童

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

出棺を見送る１年生児童

○　定期的に行われる学校担当獣医師との授業の中でヤギの様子を見ていただき、「死が近いこと」を知らせていただいており、放送で児童に伝えるなど、ヤギの最期に備えた準備をすることができました。また、ヤギの様子を診察していただき、介護について助言をいただくことができました。体温を保つために毛布を掛けることや、褥瘡（じょくそう）（床ずれ）を防ぐためにヤギの体の下に藁を敷くと良いことなどを具体的に教えていただき、適切な対応をとることができました。

○　ヤギの最期が近いことを知らせると、これまで世話に協力していただいていたボランティアや保護者、卒業生など多くの方が、見舞いや別れの挨拶をしに来校され、本校にとってヤギがとても大切な存在であったことを実感しました。

【児童の反応】

○　ヤギの大好きな葉を持ってきたり、水をあげたり、ブラッシングをしたり、掃除をしたりといったように、立てなくなったヤギのために何かできることはないかを考えて行動することができました。

○　ヤギの最期を迎えて、継続的に飼育活動を行っている低学年児童や委員会の児童だけでなく、多くの児童がお別れのメッセージを書いたり、ヤギ小屋に訪れたりして、自分の思いを伝えようとしていました。どのメッセージにも、ヤギを大切に思う気持ちや感謝の気持ちが表されていました。

★★★